力石　咲、《結晶集合体_33》、2025、ベンガラ染めで染めた残糸、
H70 × W34 × D29 cm
写真: 今村裕司　画像提供: 艸居

# 力石 咲「アモルファス」

会期：2025 年 12 月 23 日（火）～2026 年 1 月 30（金）
内覧会：2025 年 12 月 20 日（土）11:00 AM - 1:00 PM
会場：艸居｜〒605-0089　京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2
開廊時間：11AM–6PM　休廊日：日・月

※誠に恐れ入りますが、下記の期間を冬季休廊とさせていただきます。
2025 年 12 月 27 日（土）～ 2026 年 1 月 6 日（火）

艸居　〒605-0089　京都市東山区元町 381-2
Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089
T: 075-746-4456　F: 075-746-4457　info@gallery-sokyo.jp　www.gallery-sokyo.jp

プレスリリース

艸居(京都)では、力石咲の初個展「アモルファス」を開催いたします。力石咲は、「編む／ほどく」という行為を通して、もの・人・まちのつながりや変化を探る美術家です。長年の制作で 1 次元の糸を絡ませて 3 次元の物体を編む行為を結晶形成に例えてきました。

本展のタイトル「アモルファス」は、個々の作品が結晶のように秩序を持つ一方で、展示全体として空間やギャラリー、人々などさまざまな要素と融合すると、無秩序な状態へと変化することに由来しています。
1 次元の糸から 3 次元の物体が立ち上がるように、私たちの世界も無数の粒子の結びつきによって形づくられています。日々の生活や情報の波に追われ、複雑さに押しつぶされそうになる現代社会。その只中で、力石は宇宙的な視点と物事の本質へのまなざしを手がかりに、世界をいったん解きほぐし、シンプルな「はじまり」を見つめ直します。人新世のチリともいえる余剰糸を現代の資源として扱い、編むという行為によって新たな世界を再構築しようとする力石の試みは、めまぐるしい日常から静かに再出発するための一歩となります。

力石は、「残糸」や不要になった繊維・素材、廃材の再利用を積極的に行い、現代社会の資源過剰問題に光を当てています。また、糸の染色においても、環境への負荷が少ない方法を選択しています。近年、力石が取り入れている染色方法には、ピグメントバイオ染めとベンガラ染めがあります。ピグメントバイオ染めは、顔料で染色した後に酵素を含む液で洗浄する手法です。酵素が余分な染料を分解するため、排水は透明で美しく、環境への影響が少ないのが特徴です。工場規模で行う場合は、環境に優しい方法であるため、工場での専門的な染色工程を経て仕上げています。一方、ベンガラ染めは家庭規模で行う場合に環境負荷が少ない方法ですが、大量に染める場合には環境への影響が大きくなる可能性があります。そのため、力石が作品に使用するベンガラ染めの糸は、すべて自宅で自身の手で環境に配慮し、丁寧に染めています。

京都では、古くから盛んだった西陣織などの染色産業が、明治から昭和にかけて河川汚染を引き起こしました。下水道が未整備だった当時、多くの工場排水が鴨川・堀川・桂川へ直接流され、化学染料や金属媒染剤による汚濁が深刻化しました。昭和中期には「色のついた水が流れる」と記録されるほどで、生態系の悪化や悪臭が市民生活にも影響を及ぼしました。こうした歴史を踏まえると、本展で展示する力石の“環境

に配慮した染色作品”は、京都が抱えてきた環境問題との対比を示す意味でも重要な展示となるでしょう。 過去の負の側面を踏まえつつ、持続可能な染色のあり方を提示することで、地域の歴史と現代の取り組みを結びつける役割を果たします。1970 年代以降は、排水規制の強化や下水道整備の進展、染色技術の改良によって水質は徐々に回復しました。現在ではかつてのような深刻な汚染は見られず、生態系も戻りつつあるものの、都市排水による負荷は残っており、継続的な環境保全が求められています。

本展では、立体作品、「編み図」をモチーフにしたドローイング、ガラスと砂を用いた作品、砂の粒子が作る繊細な凹凸に微細な糸の繊維が絡みついて定着する絵画に加え、亘理町立郷土資料館の協力によって地域の年中行事であった七夕馬とそこからインスピレーションを得た「ほどける馬っこ」も展示いたします。これは、力石が「WATARI TRIPLE［C］PROJECT」にアーティストとして参加した際に、亘理町との関わりを通じて培った地域との対話を作品として再現いたします。

この貴重な機会に、是非ともご高覧いただきたくご案内申し上げます。

**力石咲（ちからいし・さき）**
1982 年埼玉県生まれ。2004 年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業。現在、東京都を拠点に制作。主な個展に、2012 年「UNIVERSE⇄UNIVERSE」ELTTOB TEP ISSEY MIYAKE GINZA（東京）； 2020 年「文化庁 文化経済戦略推進事業 Artist In the Office CIRCULATION RECIPE」三菱地所株式会社本社内 SPARKLE（東京）；2023 年「アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.13 力石咲」岐阜県美術館（岐阜）；2023 年「力石咲 滞在制作・展示 ファイバー! サバイバー! ここにある術」東京都渋谷公園通りギャラリー（東京）；2025 年「Brillia Art Award Cube 2025 石油のメモリー・ガーデン」THE GALLERY（東京）などがある。主なグループ展には、2004 年「第 7 回文化庁メディア芸術祭」東京都写真美術館（東京）；2004 年「インフォメーション・アートの想像力展」東京都写真美術館（東京）；2014 年「ICC キッズ・プログラム 2014 ひらめきとはてなの工場」NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]（東京）；2021 年「AIR 1/2F」BnA Alter Museum（京都）；2022 年「開館 25 周年記念 全館コレクション展『これらの時間についての夢』」宇都宮美術館（宇都宮・栃木）がある。 受賞歴には 2003 年第 7 回文化庁メディア芸術祭アート部門推薦、2014 年 LUMINE meets ART AWARD 2014 グランプリ、2025 年 Brillia Art Award Cube 2025 入選など。舞台には、2022 年吉祥寺ダンス LAB. vol.4 水越朋×力石咲「エコトーン ECHO-TONE」吉祥寺シアター（東京）がある。

**出展作品写真：**

力石　咲
結晶集合体_31_4
2025
ピグメントバイオで染めた残糸
H19 × W21 × D16 cm
（写真：今村裕司，画像提供：艸居）

力石　咲
毛糸玉モンスター_柏餅モンスター
2025
残糸ほか
（©力石咲）

艸居　〒605-0089　京都市東山区元町 381-2
Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089
T: 075-746-4456　F: 075-746-4457　info@gallery-sokyo.jp　www.gallery-sokyo.jp

力石　咲
毛糸玉モンスター_袋詰めモンスター
2025
残糸ほか
（©力石咲）

力石　咲
《結晶集合体_ 23》結晶構造図
2024
紙に鉛筆
H42×W29.7 cm
（ ©力石咲）

力石　咲
アモルファス - シブヤ
2024
ガラス、砂、砂を固めた上にガラスを設置
H3,3 × W8.5 ×D6 cm
（©力石咲）

艸居　〒605-0089　京都市東山区元町 381-2
Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089
T: 075-746-4456　F: 075-746-4457　info@gallery-sokyo.jp　www.gallery-sokyo.jp

力石　咲
《ほどける馬っこ》シリーズ
2024
テトロンの残糸
（©Asumi Kuroda）
同シリーズの作品を展示予定

力石　咲
地球に絡ませて描く_Emotional Support 6
2023
残糸を砂のキャンバスに絡ませて描く
H60.2 × W45.2 × D0.8 cm
（撮影：竹村直恭）

**力石　咲「アモルファス」**
2025 年 12 月 23 日（火）～ 2026 年 1 月 30（金）
内覧会：2025 年 12 月 20 日（土）11:00 AM - 1:00 PM
会場：艸居｜〒605-0089　京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2
開廊時間：11AM–6PM　休廊日：日・月
冬季休廊：2025 年 12 月 27 日（土）～ 2026 年 1 月 6 日（火）

掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。
〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2
info@gallery-sokyo.jp / 075-746-4456
担当：和田